羅漢†無双

水銀の使い手

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
羅漢†無双

【Ｎコード】
Ｎ６６０９Ｙ

【作者名】
水銀の使い手

【あらすじ】
なんと！？あのバカでバグで変態である英雄『ジャック・ラカン』が恋姫の世界に！？
この小説は駄文、ご都合主義、主人公最強、キャラ崩壊などの成分が含まれております。それにアレルギー反応が起きる方はスルーして下さい。
そうでなければ小学生の頃に描いた『ぼくがかんがえたすごくつよいぶき』といった黒歴史のノートが友達を家に誘ったさいに見つかる確率が大幅に上がります。

更新速度は気合が出てきたらです。

プロローグ（前書き）

さてはて、なんかノリで書いちゃいましたよ。原作とか三国志とかあまり知識が無いが頑張ろうと思う。

プロローグ

褐色肌の英雄は消された右腕を『千の顔を持つ英雄』で補い武装する。

――帝国九七式破城槌型魔導鉄甲！！！――

褐色肌の英雄の右腕は巨大な機械の腕へと変化する。それを見て白髪の青年は眉を顰た。

「：あなたに似合わぬ無様な武器だ。なぜだ：？
なぜあなたはそんな顔で戦える？全てが無意味だと知らされながら」

「いや、あなたは既に知っていた：１０年前、いや、２０年前のあの日からＭＭ上層部がひた隠しにするこの世界の秘密に」

「この世界の無慈悲な真実に。
絶望に沈み神を呪うもおかしくはない真実だ。事実これまでに、僕が見てきた者は皆そうだった」

「なぜだ？　真実を知り、尚、２０年：なぜあなたは、この意味なき世界をそんな顔で飄々と歩み続けられる？」

白髪の青年は問いた。対峙している褐色肌の英雄に。褐色肌の英雄は「ほ」と小さく驚きの声を上げる。

「：なんだ、てめぇ
んなこともわかってなかったのか。
（てっきりわかってやってんのかと：）」

そんなことを思いながら、褐色肌の英雄は不敵な笑みを浮かべてその問いに解した。

「真実？　意味？
そんな『言葉』、俺の生にゃあ何の関係もねぇのさ」

その解に白髪の青年は苦虫を噛み潰した表情をする。

「……ッ
ならば、その真実に焼かれて消え去るがいい。幻よ！！」

白髪の青年は周囲に展開していた無数の石の黒杭を褐色肌の英雄に飛ばした。だがその黒杭を一発も当たらずに褐色肌の英雄は白髪の青年の背後を取る。白髪の青年はそれに気付き褐色肌の英雄の一撃を体を少しずらして躱し、拳の打ち合いが始まる。褐色肌の英雄は殺気に気付き顔を横にずらして白髪の青年が放った『造物主の掟』の一撃を避ける。間髪入れずに白髪の青年は地を踏み込み掌底を入れるが、それさえも躱し白髪の青年の背後に回ると巨大な機械の腕と化した右腕を振り下ろし、一撃を与えてそのまま地面に叩き付けるようにして殴り付けた。その威力は凄まじく、殴り付けられた地面は隆起していた。

「ぐ‥」

白髪の青年は苦痛の声を上げるが、その程度であった。

「‥これも無意味だよJ・ラカン、結果はもう決まっている」

そう言った白髪の青年に褐色肌の英雄―――ジャック・ラカンは口

角を吊り上げながら返す。

「けど、楽しかったろ？」

ガチンッ、と巨大な機械の腕の肘に付いていた杭が音を鳴らし、

「もちっと楽しめや、『フェイト』」

ゴッ・・！！！、と轟音を上げて杭が撃たれそれに連動して追加の一撃を白髪の青年――フェイト・アーウェンルクスに食らわした。

・・・・・・・・・・

ラカンはフェイトにデカイ一撃を与えた後、自分の存在する限界を悟り弟子である赤毛の青年――ネギ・スプリングフィールドに後を託して桜の花びらが散るようにして消え去った。ラカンが消えた後、ネギは怒りのあまり暴走状態になり、『闇の魔法』の影響で半魔物化してフェイトを攻撃するものの消えたはずの英雄の一撃により暴走状態が解かれる。フェイトはその英雄に心底呆れて転移してその場を去り、ネギはそれを止めようとするが英雄に止められる。そして消えたはずの英雄――ラカンは再び弟子の前へと現れた。

『よ♪』

「ラ・ラカン・・さ・・ん・・」

『これか？気合だ。
全ては気合で何とかなる。』

ラカンは弟子の相談役兼パートナーの一人である長谷川千雨が持っている『いどの絵日記』をちらっと見る

『・・どうやら世界の真相には到ったようだな』

『なら、話は早ぇぜ。
見てのとおり、奴らはその世界の秘密に繋がる力を得たみてぇだ。
わかるな？俺じゃ、今の奴らにてんで敵わねぇって訳だ。奴らを止められるのはお前達だけだ！！』

「・・・・・・！」

『まあ、ガキのてめぇに世界を背負えとまでは言わねぇ。アスナを頼む』

「え・・」

『奴らが造物主の力を得ている以上、ホンモノのアスナは向こうの手にあると考えるべきだ・・』

「え・・」
「！？」

「ラカンさん今なんて！？」

『おーう嬢ちゃん！
チサメ嬢ちゃん！』

「な、なんだ私かよ？」

『今の暴走でわかるとおりコイツはまだまだだ。
バカやらねぇように見ててやってくれねぇか。
嬢ちゃんが一番コイツを見てる。頼むぜ』

「なッ・・・
ババ、バカ言ってんじゃねぇよ。何で私が！？そういう役目は神楽坂一択だろうがよッ！！」

顔を赤くしながら千雨は返す。

『今、お前達の傍らにいるアスナはおそらく偽物・・・。替え玉の幻だ・・・』

気合で再び現界出来たラカンだったが、それも限界が来たらしく身体の下半身は消え、上半身も少しずつ消えていく。

「なッ・・」
「・・！！」

『いや・・・偽物とは言えねぇか。俺や・・この世界のように・・・』

消え去りながらもニッとラカンは笑う

「あ・・ラ・・カン・・さん・・」

『へっ・・じゃあなぼーず。闇に喰われるなよ』

上半身は消え去るが左腕だけ残り、弟子の肩へと置き別れと告げる。

「ラカンさんっ」

『後ろじゃねぇ、前を見て歩け。
前を見て歩き続けるヤツに、世界は微笑む。』

「ラカンさんッ」

ネギは悲痛に天上に向けて叫ぶ。
そして一人の英雄はこの場から退場するのであった・・・・。

――――それがとある物語の始まりだと知らずに・・・・・

白い空間（前書き）

まだ序章みたいなもんです。次からは入ります。

白い空間

「んあ？此処は・・」

長髪で筋肉質の褐色肌の大男――ジャック・ラカンは目を覚ますと、ガリガリと頭を掻きながら上半身を起こして辺りを見回す。辺り一面は白く、自分以外の気配は無かった。

「此処がフェイトが言っていた『完全なる世界（コズモ・エンテレケイア）』か？」

「ずいぶんとシケてんな」とラカンはぼやき、よっこらせと立ち上がってボキボキと首を鳴らした。

「しっかし、ホントに何も無いな此処・・」

ラカンは愚痴りながら白い空間を歩き続ける。しばらく歩いていると目の前に何かが落ちているのを発見し、それを拾い上げる。

「手紙か・・？
宛名は・・・って、俺かよ・・」

ラカンは手紙を裏返し宛名を調べると自分の名前だったことに驚く。そして内容を確認するため手紙を開ける。

「えーっと、何々？
『貴方にはこれから三国志の世界へ行ってもらいます。三国志といっても外史（それに似た平行世界）なので歴史が変わっても本史に影響しないので大丈夫です。』
・・・なんだこりゃあ？三国志って確か、魏・呉・蜀の三国が争覇し

たっていうやつだろ？アレの漫画呼んだ事あるが、あんま覚えてねぇんだよな…。ん？二枚目があるな…」

ガシガシと頭を掻きながら二枚目を読む。

「『そうそう、その外史にいる武将達は全員女性に性転換していますからイロイロと楽しめると思いますよ？しかも美少女揃いです。』…って、マジかよ！？あの髭面のオッサン達が女性に…しかも美少女にって、想像付かねぇな…。と、三枚目があるな。」

だけど面白そうだなこの世界、と興味津々になりながら三枚目を見る。

「『ただ一つだけ注意することがあります。その外史には“真名”というものがあります。“真名”というのは姓・名・字以外の名であり、本人が心を許した証として呼ぶことを許した名前であり、本人の許可無く“真名”で呼び掛けると問答無用で斬られるほど失礼に値するので悪しからず。』

…って、マジかよ。知らなかったら普通に呼んでいたな。こりゃあ感謝するぜ。お？これで最後だな。」

ラカンは最後の手紙を見る。

「『これで最後です。必要無いと思いますが一応念の為、仮契約カードの『千の顔を持つ英雄』を使えるようにしました。裏に続く。』

べつに剣使わなくてもいいんだがな。拳（こぶし）の方が強ぇし。」

そうぼやきながらぺらりと手紙を裏返す。

「『書くことも無くなったのでこれで説明は終わりです。尚、説明

が終えるとこの手紙は自動的に燃えて貴方は穴に落ちて外史の世界に行ってもらいますので注意して下さい。『・・・って、は？」

ボッ、と手紙が燃えたと同時にラカンの足元から大きな穴が出現する。

「ぷーさんけるなあぁぁあああぁぁぁーーー・・・・・・」

間抜けの声を出し、悲鳴を上げながらラカンは深く深く穴へと落ちていった。

ラカンが穴へ落ちた後、白い空間に一人の黒衣を身に纏う青年が現れた。フードを被っていて顔はよく見えないが赤い毛がチラッと見えた。

「その世界を救ってくれ。頼むぜジャック・ラカン・・・いや――――好敵手（ジャック）」

黒衣の青年はニッと笑うと霞のようにして姿を消した。

そして誰もいなくなった。

白い空間（後書き）

最後のは何となく入れたもんなので、とくに深い意味は無いです。

・・・誰だか解りますよね？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6609y/

羅漢†無双

2011年11月23日23時48分発行